

大学番号：公立専大2

[令和3年度設置]

計画の区分： 専門職大学の設置

認可

芸術文化観光専門職大学 芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科

## 【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

兵庫県公立大学法人  
令和3年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）	教育企画部教育企画課
職名・氏名	職員 岡崎 薫 <sup>オカザキ カオル</sup>
電話番号	0796-34-8125
（夜間）	0796-34-8125
e-mail	kaoru_okazaki@ofc.u-hyogo.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。  
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科  
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))  
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
例)  
・大学の設置の場合：「〇〇大学」  
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」  
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」  
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」  
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」  
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」  
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」  
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

## 目次

芸術文化・観光学部

＜芸術文化・観光学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	37

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

兵庫県公立大学法人

(2) 大学名

芸術文化観光専門職大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒668-0044  
兵庫県豊岡市山王町7番52

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イオキベ マコト) 五百旗頭 真 (平成30年4月)		
学長	(ヒラタ オリザ) 平田 オリザ (令和3年4月)		
学部長	(フジノ カズオ) 藤野 一夫 (令和3年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
 (例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)  
 令和3年度に報告する内容 → (3)  
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員		
芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科 芸術文化学士 （専門職） 観光学士 （専門職）	社会学・社会学関係 美術関係	4年	80人	—人	320人	新規入学者を募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— ( — ) [ — ]	80 ( — ) [ — ]	— ( — ) [ — ]	1.05倍	— 倍								
志願者数	( — ) [ — ]	621 ( — ) [ — ]	( — ) [ — ]										
受験者数	( — ) [ — ]	570 ( — ) [ — ]	( — ) [ — ]										
合格者数	( — ) [ — ]	91 ( — ) [ — ]	( — ) [ — ]										
B 入学者数	( — ) [ — ]	84 ( — ) [ — ]	( — ) [ — ]										
入学定員超過率 B/A									1.05				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、( ( ) )書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [ — ] ( — )	84 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )								
2 年次	/		— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )							
3 年次			/		— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )				
4 年次	/				— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )				
計			— [ — ] ( — )	84 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )						

・ 令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
令和2年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
令和3年度	84 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{84} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科>

(1) - ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
①基礎科目	コミュニケーション演習	1①、③	3			1	1	3	2			
	知と表現のデザイン	1①、③	2			3			3	1		
	情報処理演習	1①、③	2				1	1				
	ICT演習	2①、③	2				1	1				
	データサイエンス演習	3①	1				1					
	英語1A	1①	3								2	
	英語1B	1③	3								2	
	英語2A	2①	2								3	
	英語2B	2③	2								3	
	中国語	2①		2					1			
	韓国語	2③		2					1			
	日本語	1①		2					1			
	英語合宿	1②		1				1				
	海外語学研修A	1-2-3④		2		1	1					
	海外語学研修B	1-2-3②		2		1	1					
	海外語学研修C	1-2-3②		2		1	1					
	統計学	1①		2								1
社会調査学	1①		2				1					
知的創造性科目	社会学	1-2②④	1									1
	言語表現論	1-2②		1								1
	地域とつながる歴史学	1-2②		1								1
	政治学	1-2②		1								1
	文学	1-2②		1								1
	経済学	1-2②④		1								1
	美学	1③		2								
	芸術学	1③		2								
小計(26科目)	-	19	28	0	6	3	7	3	0	11		
②職業専門科目	マネジメント入門	1①	2			2						
	アカウンティング入門	1③	2			1						
	事業創造入門	2①	2				1	1				1
	観光事業概論	1①	2			2	1					
	観光産業マーケティング論	2①	2			1						
	観光サービスマネジメント論	2①		2		1						
	アートマネジメント概論	1①	2			2			1			
	パフォーミングアーツ概論	1①	2			1	1	2				1
	文化施設運営論	2①	2				1	1				
	芸術文化と観光	1①	1			2						1
	建築関連法令と著作権	2②		1								2
	地域創生論	2③		2		1						1
	芸術文化・観光プロジェクト実習1【臨】	1②	2			1	1	4	4			
	芸術文化・観光プロジェクト実習2【臨】	2②	2			1	1	4	4			
	芸術文化・観光プロジェクト実習3【臨】	3②	2			2	3	1				
	芸術文化・観光プロジェクト実習4【臨】	4②	2			2	3	1				
	専門演習	3①、③	4			12	9					
小計(17科目)	-	23	11	0	13	9	7	5	0	4		
共通	リーダーシップ論	2①		2		1						
	グローバルリーダー入門	2①		2			1					
	アントレプレナーシップ論	2③		2		1						
	ビジネスアカウンティング論	2③		2		1						
	組織マネジメント論	3①		2			1					
	コーチング論	3①		2								1
	地域イノベーション論	3①		2		1						
	リスクマネジメント論	3③		2			1					
	人的資源管理論	3④		1								1
	地域創生実習【臨】	2④		2		1	1	1	1	1		
	創造性開発演習	3①		2		1			1			
	地域イノベーション実習【臨】	3②		2		1	1	1	2	1		
	地域連携実習【※】	4②		2		1	1	2	1			
小計(13科目)	-	0	25	0	4	1	1	2	1	2		

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
①基礎科目	コミュニケーション演習	1①、③	3			1	1	3	2			
	知と表現のデザイン	1①、③	2			3			3	1		
	情報処理演習	1①、③	2				1	1				
	ICT演習	2①、③	2				1	1				
	データサイエンス演習	3①	1				1					
	英語1A	1①	3								1	
	英語1B	1③	3								1	
	英語2A	2①	2								3	
	英語2B	2③	2								3	
	中国語	2①		2					1			
	韓国語	2③		2					1			
	日本語	1①		2					1			
	英語合宿	1②		1				1				
	海外語学研修A	1-2-3④		2		1	1					
	海外語学研修B	1-2-3②		2		1	1					
	海外語学研修C	1-2-3②		2		1	1					
	統計学	1①		2								1
社会調査学	1①		2				1					
知的創造性科目	社会学	1-2②	1									1
	言語表現論	1-2②		1								1
	地域とつながる歴史学	1-2②		1								1
	政治学	1-2②		1								1
	文学	1-2②		1								1
	経済学	1-2②		1								1
	美学	1③		2								
	芸術学	1③		2								
小計(26科目)	-	19	28	0	6	2	8	3	0	11		
②職業専門科目	マネジメント入門	1①	2			2						
	アカウンティング入門	1③	2			1						
	事業創造入門	2①	2				1	1	1			0
	観光事業概論	1①	2			2	1					
	観光産業マーケティング論	2①	2			1						
	観光サービスマネジメント論	2①		2		1						
	アートマネジメント概論	1①	2			2			1			
	パフォーミングアーツ概論	1①	2			1	0	2				1
	文化施設運営論	2①	2				1	1	1			
	芸術文化と観光	1①	1			2						1
	建築関連法令と著作権	2②		1								2
	地域創生論	2③		2		1						1
	芸術文化・観光プロジェクト実習1【臨】	1②	2			1	1	4	4			
	芸術文化・観光プロジェクト実習2【臨】	2②	2			1	1	4	4			
	芸術文化・観光プロジェクト実習3【臨】	3②	2			2	3	1				
	芸術文化・観光プロジェクト実習4【臨】	4②	2			2	3	1				
	専門演習	3①、③	4			12	8					
小計(17科目)	-	23	11	0	13	8	7	5	0	5		
共通	リーダーシップ論	2①		2		1						
	グローバルリーダー入門	2①		2			1					
	アントレプレナーシップ論	2③		2		1						
	ビジネスアカウンティング論	2③		2		1						
	組織マネジメント論	3①		2			1					
	コーチング論	3①		2								1
	地域イノベーション論	3①		2		1						
	リスクマネジメント論	3③		2			1					
人的資源管理論	3④		1								1	
地域創生実習【臨】	2④		2		1	1	1	1	1			
創造性開発演習	3①		2		1			1				
地域イノベーション実習【臨】	3②		2		1	1	1	2	1			
地域連携実習【※】	4②		2		1	1	2	1				
小計(13科目)	-	0	25	0	4	1	1	2	1	2		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
観光系科目群	観光政策論	1③	2		1							
	観光交通論	1③	2				1					
	ニューツーリズム論	1③	2		1	1						
	観光経営学	1③	1								1	
	観光産業分析	1③	1								1	
	旅行産業論	2①	2		1							
	宿泊産業論	2①	2			1			1			
	エリアマネジメント論	2①	2		1	1						
	観光社会学	2①	2								1	
	デスティネーションマネジメント論	2③	2		1							
	観光地理学	2③	2		1	1						
	観光マーケティング分析論	2③	2		1							
	観光メディア論	3①	2								1	
	観光キャリア英語	3①	2		1							
	マネジメントキャリア英語	3①	2		1							
	観光デジタルマーケティング論	3②	2								1	
	デスティネーションマーケティング論	3③	2		1							
旅行者心理学	3③	2		1								
ブランド論	3③	2		1								
インバウンドマーケティング論	3③	2		1								
小計(20科目)	—	0	38	0	8	2	1	1	0	3		
職業実践科目	社会調査演習	1①③	2		1							
	観光資源実習【臨】	1②	1			1			1			
	観光交通実習1【臨】	1④	2						2			
	観光交通実習2【臨】	2④	2		1				2			
	旅行事業実習1【臨】	2②	2		1				2			
	旅行事業実習2【臨】	3②	2		1				2			
	宿泊業実習1【臨】	2②	4		1	1			1	1		
	宿泊業実習2【臨】	2④	4		1	1			1	1		
	海外実習A【※】	2④	2		1	1	1		1	1		
	ホスピタリティ実習【臨】	2④	8		1	1			1			
	観光プロモーション演習【速】	3①	2			1						
	デスティネーション実習【臨】	3②	2		2	1			1			
観光情報演習	3③	2				1						
観光プロジェクト立案演習【速】	3③	2		1								
小計(14科目)	—	0	37	0	5	2	2	3	1	0		
芸術文化系科目群	演劇史	1②	1								1	
	文化政策概論	1③	2		2				1			
	批評論	2①	2		1							
	芸術文化と著作権、法、契約	2②	1								1	
	美学美術史	2③	2		1							
	世界の文化政策	2③	2				3					
	映像メディア論	2④	1								1	
	企業メセナ論	3①	2				1					
	アートキャリア英語	3①	2				1					
	民俗芸能論	3②	1								1	
	音楽文化論	3③	2		1							
	現代アート論	3③	2		1		1					
	文化産業論	3③	2				1			1		
	舞台芸術入門	2①	2			2	1	1				
	演劇入門	2①	2		1							
	空間デザイン入門	2①	2			1						
	演劇教育入門	2③	2				2	1				
	演技論	2③	2			1	1					
	身体表現論	2③	2			1	1					
舞台芸術論	3①	2		1		2						
舞台美術論	3①	2			1							
パフォーマンスキャリア英語	3①	2								1		
演劇教育論	3③	2			2	1						
小計(23科目)	—	0	42	0	4	3	7	3	0	4		

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
観光系科目群	観光政策論	1③	2		1							
	観光交通論	1③	2				1					
	ニューツーリズム論	1③	2		1	1						
	観光経営学	1③	1								1	
	観光産業分析	1③	1								1	
	旅行産業論	2①	2		1							
	宿泊産業論	2①	2			1			1			
	エリアマネジメント論	2①	2		1	1						
	観光社会学	2①	2								1	
	デスティネーションマネジメント論	2③	2		1							
	観光地理学	2③	2		1	1						
	観光マーケティング分析論	2③	2		1							
	観光メディア論	3①	2								1	
	観光キャリア英語	3①	2		1							
	マネジメントキャリア英語	3①	2		1							
	観光デジタルマーケティング論	3②	2								1	
	デスティネーションマーケティング論	3③	2		1							
旅行者心理学	3③	2		1								
ブランド論	3③	2		1								
インバウンドマーケティング論	3③	2		1								
小計(20科目)	—	0	38	0	8	2	1	1	0	3		
職業実践科目	社会調査演習	1①③	2		1							
	観光資源実習【臨】	1②	1			1			1			
	観光交通実習1【臨】	1④	2						2			
	観光交通実習2【臨】	2④	2		1				2			
	旅行事業実習1【臨】	2②	2		1				2			
	旅行事業実習2【臨】	3②	2		1				2			
	宿泊業実習1【臨】	2②	4		1	1			1	1		
	宿泊業実習2【臨】	2④	4		1	1			1	1		
	海外実習A【※】	2④	2		1	1	1		1	1		
	ホスピタリティ実習【臨】	2④	8		1	1			1			
	観光プロモーション演習【速】	3①	2			1						
	デスティネーション実習【臨】	3②	2		2	1			1			
観光情報演習	3③	2				1						
観光プロジェクト立案演習【速】	3③	2		1								
小計(14科目)	—	0	37	0	5	2	2	3	1	0		
芸術文化系科目群	演劇史	1②	1									1
	文化政策概論	1③	2		2							
	批評論	2①	2		1							
	芸術文化と著作権、法、契約	2②	1									1
	美学美術史	2③	2		1							
	世界の文化政策	2③	2				3					
	映像メディア論	2④	1									1
	企業メセナ論	3①	2				1					
	アートキャリア英語	3①	2				1					
	民俗芸能論	3②	1									1
	音楽文化論	3③	2		1							
	現代アート論	3③	2		1		1					
	文化産業論	3③	2				1			1		
	舞台芸術入門	2①	2			2	1	1				
	演劇入門	2①	2		1							
	空間デザイン入門	2①	2			1						
	演劇教育入門	2③	2				2	1				
	演技論	2③	2			1	1					
	身体表現論	2③	2			1	1					
舞台芸術論	3①	2		1		2						
舞台美術論	3①	2			1							
パフォーマンスキャリア英語	3①	2								1		
演劇教育論	3③	2			2	1						
小計(23科目)	—	0	42	0	4	3	7	3	0	4		

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
												修
②職業専門科目	舞台芸術基礎実習【連】	1㉓	2			3	4	3				
	舞台芸術実習A【連】	2㉑	2			3	4	3				
	舞台芸術実習B【臨】	2㉒	2			3	4	3				
	舞台芸術実習C【連】	3㉑	2			3	4	3				
	舞台芸術実習D【臨】	3㉒	2			3	4	3				
	劇場プロデュース実習1【臨】	2㉔	2		1	1	1	1				
	劇場プロデュース実習2【臨】	3㉔	2		1	1	1	1				
	文化政策実習【臨】	3㉔	2		1		3	1				
	総合芸術文化実習【臨】	4㉔	4			1	1					
	身体コミュニケーション実習【※】	1㉑	2			2	1					
	演劇ワークショップ実習A【※】	1㉒	2					1	1			
	演劇ワークショップ実習B【※】	1㉓	2					1	1			
	演劇ワークショップ実習C【※】	2㉔	2					1	1			
	演劇ワークショップ実習D【※】	2㉔	2					1	1			
	ダンスワークショップ実習A【※】	1㉑	2			1						
	ダンスワークショップ実習B【※】	1㉒	2				1					
ダンスワークショップ実習C【※】	2㉔	2				1						
ダンスワークショップ実習D【※】	2㉔	2				1						
海外実習B【※】	2㉔	2			1			1				
小計(19科目)	—	—	0	40	0	2	4	7	4	0	0	
小計(106科目)	—	—	23	193	0	13	9	10	8	1	12	
③展開科目	世界を知る	1㉓	2			1						
	地域の医療と福祉	1㉓	2								1	
	持続可能な社会	1㉓	2								1	
	地域コミュニティー論	2㉑	2		1							
	国際防災論	2㉑	2			1						
	NPO・NGOと国際社会	2㉒	2								1	
	多文化社会の社会教育	2㉒	2								1	
	兵庫の教訓を踏まえた防災	3㉔	2								1	
	ジオパークと地域	3㉔	2								3	
	コウノトリの野生復帰と地域	3㉔	2								7	
	地域資源の保全と活用	3㉔	2								3	
	地域情報論	3㉔	2				1					
	国際環境論	3㉔	2							1		
小計(13科目)	—	—	0	26	0	3	2	0	0	0	15	
科目合④総	総合演習	4㉑③	4			12	9					
小計(1科目)	—	—	4	0	0	12	9					
合計(146科目)	—	—	46	247	0	13	9	10	8	1	38	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
												修
②職業専門科目	舞台芸術基礎実習【連】	1㉓	2			3	4	3				
	舞台芸術実習A【連】	2㉑	2			3	4	3				
	舞台芸術実習B【臨】	2㉒	2			3	4	3				
	舞台芸術実習C【連】	3㉑	2			3	4	3				
	舞台芸術実習D【臨】	3㉒	2			3	4	3				
	劇場プロデュース実習1【臨】	2㉔	2		1	1	1	1				
	劇場プロデュース実習2【臨】	3㉔	2		1	1	1	1				
	文化政策実習【臨】	3㉔	2		1		3	1				
	総合芸術文化実習【臨】	4㉔	4			1	1					
	身体コミュニケーション実習【※】	1㉑	2			2	1					
	演劇ワークショップ実習A【※】	1㉒	2					1	1			
	演劇ワークショップ実習B【※】	1㉓	2					1	1			
	演劇ワークショップ実習C【※】	2㉔	2					1	1			
	演劇ワークショップ実習D【※】	2㉔	2					1	1			
	ダンスワークショップ実習A【※】	1㉑	2			1						
	ダンスワークショップ実習B【※】	1㉒	2				1					
ダンスワークショップ実習C【※】	2㉔	2				1						
ダンスワークショップ実習D【※】	2㉔	2				1						
海外実習B	2㉔	2			1			1				
小計(19科目)	—	—	0	40	0	2	4	7	4	0	0	
小計(106科目)	—	—	23	193	0	13	9	10	8	1	12	
③展開科目	世界を知る	1㉓	2			1						
	地域の医療と福祉	1㉓	2								1	
	持続可能な社会	1㉓	2								1	
	地域コミュニティー論	2㉑	2		1							
	国際防災論	2㉑	2			1						
	NPO・NGOと国際社会	2㉒	2								1	
	多文化社会の社会教育	2㉒	2								1	
	兵庫の教訓を踏まえた防災	3㉔	2								1	
	ジオパークと地域	3㉔	2								3	
	コウノトリの野生復帰と地域	3㉔	2								7	
	地域資源の保全と活用	3㉔	2								3	
	地域情報論	3㉔	2				1					
	国際環境論	3㉔	2							1		
小計(13科目)	—	—	0	26	0	3	2	0	0	0	15	
科目合④総	総合演習	4㉑③	4			12	9					
小計(1科目)	—	—	4	0	0	12	9					
合計(146科目)	—	—	46	247	0	13	9	10	8	1	38	

【認可時又は届出時】

卒業要件及び履修方法
<p>&lt;主たる専攻・芸術文化分野&gt; ・卒業要件 卒業要件単位数は、合計134単位以上を修得する。 次により、必修科目46単位、選択科目88単位以上を修得すること。</p> <p>【基礎科目】基礎科目では、必修科目及び選択科目について合計20単位以上を修得する。</p> <p>【職業専門科目】 職業専門科目では、必修科目のほか選択科目について次の要件を満たした上で、90単位以上を修得する。必修科目、選択必修科目の必修単位数を除く39単位のうち、30単位以上は「コア科目群」「共通」「芸術文化系科目群」の科目から履修すること。</p> <p>コア科目群の「パフォーミングアーツ概論」を必ず履修すること。</p> <p>(1)【共通】のうち「リーダーシップ論」「グローバルリーダー入門」「アントレプレナーシップ論」「組織マネジメント論」から2単位、「地域創生実習」「地域イノベーション実習」から2単位。</p> <p>(2)【観光系科目群】のうち「観光交通論」「観光経営学」「観光産業分析」「旅行産業論」「宿泊産業論」から4単位、「観光政策論」「ニューツーリズム論」「観光社会学」から2単位、「観光交通実習1」「旅行事業実習1」「宿泊業実習1」「ホスピタリティ実習」から2単位、「社会調査演習」「海外実習A」「観光プロモーション演習」「デスティネーション実習」「観光プロジェクト立案演習」から2単位。</p> <p>(3)【コア科目群】のうち「観光サービスマネジメント論」〔観光系科目群から「デスティネーションマネジメント論」「観光マーケティング分析論」「観光デジタルマーケティング論」「デスティネーションマーケティング論」から2単位</p> <p>(4)【芸術文化系科目群】のうち「文化政策概論」「批評論」「美学美術史」「映像メディア論」「民俗芸能論」「現代アート論」「文化産業論」から4単位、「舞台芸術入門」「演劇入門」「空間デザイン入門」「演技論」「身体表現論」「舞台芸術論」から2単位、「舞台芸術基礎実習」「舞台芸術実習A」「舞台芸術実習B」「劇場プロデュース実習1」「劇場プロデュース実習2」「文化政策実習」から4単位。</p> <p>【展開科目】展開科目では、次の要件を満たした上で20単位以上を修得する。 「世界を知る」「地域の医療と福祉」「地域コミュニティ論」「NPO・NGOと国際社会」「多文化社会の社会教育」「地域情報論」から8単位、「持続可能な社会」「国際防災論」「兵庫の教訓を踏まえた防災」「ジオパークと地域」「コウトリの野生復帰と地域」「地域資源の保全と活用」「国際環境論」から4単位。</p> <p>【総合科目】総合科目では4単位を修得する。</p> <p>・実習による授業科目に係る40単位以上を修得すること。この授業科目に係る単位に臨地実務実習に係る20単位(5単位を超えない範囲で、連携実務演習等をもって代えることができる。)が含まれること。 ・履修制限:1学年ごとの履修単位数の上限は48単位とする。</p>
<p>&lt;主たる専攻・観光分野&gt; ・卒業要件 卒業要件単位数は、合計134単位以上を修得する。 次により、必修科目46単位、選択科目88単位以上を修得すること。</p> <p>【基礎科目】基礎科目では、必修科目及び選択科目について合計20単位以上を修得する。</p> <p>【職業専門科目】 職業専門科目では、必修科目のほか選択科目について次の要件を満たした上で、90単位以上を修得する。必修科目、選択必修科目の必修単位数を除く39単位のうち、30単位以上は「コア科目群」「共通」「観光系科目群」の科目から履修すること。</p> <p>コア科目群の「観光サービスマネジメント論」を必ず履修すること。</p> <p>(1)【共通】のうち「リーダーシップ論」「グローバルリーダー入門」「アントレプレナーシップ論」「組織マネジメント論」から2単位、「地域創生実習」「地域イノベーション実習」から2単位。</p> <p>(2)【観光系科目群】のうち「観光政策論」「観光交通論」「観光経営学」「観光産業分析」「旅行産業論」「宿泊産業論」から4単位、「デスティネーションマネジメント論」「観光マーケティング分析論」「観光デジタルマーケティング論」「デスティネーションマーケティング論」「ブランド論」「インバウンドマーケティング論」から2単位、「観光交通実習1」「旅行事業実習1」「宿泊業実習1」から2単位、「観光プロモーション演習」「デスティネーション実習」「観光プロジェクト立案演習」から2単位。</p> <p>(3)【芸術文化系科目群】のうち「文化政策概論」「批評論」「美学美術史」「映像メディア論」「民俗芸能論」「現代アート論」「文化産業論」から4単位、「舞台芸術基礎実習」「舞台芸術実習A」「舞台芸術実習B」「劇場プロデュース実習1」「劇場プロデュース実習2」「文化政策実習」「身体コミュニケーション実習」「海外実習B」から4単位。</p> <p>(4)【コア科目群】のうち「パフォーミングアーツ概論」〔芸術文化系科目群のうち「舞台芸術入門」「演劇入門」「空間デザイン入門」「演技論」「身体表現論」舞台芸術論」から4単位。</p> <p>【展開科目】展開科目では、次の要件を満たした上で20単位以上を修得する。 「世界を知る」「地域の医療と福祉」「地域コミュニティ論」「NPO・NGOと国際社会」「多文化社会の社会教育」「地域情報論」から4単位、「持続可能な社会」「国際防災論」「兵庫の教訓を踏まえた防災」「ジオパークと地域」「コウトリの野生復帰と地域」「地域資源の保全と活用」「国際環境論」から8単位。</p> <p>【総合科目】総合科目では4単位を修得する。</p> <p>・実習による授業科目に係る40単位以上を修得すること。この授業科目に係る単位に臨地実務実習に係る20単位(5単位を超えない範囲で、連携実務演習等をもって代えることができる。)が含まれること。 ・履修制限:1学年ごとの履修単位数の上限は48単位とする。</p>

【令和3年度】

卒業要件及び履修方法
<p>&lt;主たる専攻・芸術文化分野&gt; ・卒業要件 卒業要件単位数は、合計134単位以上を修得する。 次により、必修科目46単位、選択科目88単位以上を修得すること。</p> <p>【基礎科目】基礎科目では、必修科目及び選択科目について合計20単位以上を修得する。</p> <p>【職業専門科目】 職業専門科目では、必修科目のほか選択科目について次の要件を満たした上で、90単位以上を修得する。必修科目、選択必修科目の必修単位数を除く39単位のうち、30単位以上は「コア科目群」「共通」「芸術文化系科目群」の科目から履修すること。</p> <p>コア科目群の「パフォーミングアーツ概論」を必ず履修すること。</p> <p>(1)【共通】のうち「リーダーシップ論」「グローバルリーダー入門」「アントレプレナーシップ論」「組織マネジメント論」から2単位、「地域創生実習」「地域イノベーション実習」から2単位。</p> <p>(2)【観光系科目群】のうち「観光交通論」「観光経営学」「観光産業分析」「旅行産業論」「宿泊産業論」から4単位、「観光政策論」「ニューツーリズム論」「観光社会学」から2単位、「観光交通実習1」「旅行事業実習1」「宿泊業実習1」「ホスピタリティ実習」から2単位、「社会調査演習」「海外実習A」「観光プロモーション演習」「デスティネーション実習」「観光プロジェクト立案演習」から2単位。</p> <p>(3)【コア科目群】のうち「観光サービスマネジメント論」〔観光系科目群から「デスティネーションマネジメント論」「観光マーケティング分析論」「観光デジタルマーケティング論」「デスティネーションマーケティング論」から2単位</p> <p>(4)【芸術文化系科目群】のうち「文化政策概論」「批評論」「美学美術史」「映像メディア論」「民俗芸能論」「現代アート論」「文化産業論」から4単位、「舞台芸術入門」「演劇入門」「空間デザイン入門」「演技論」「身体表現論」「舞台芸術論」から2単位、「舞台芸術基礎実習」「舞台芸術実習B」「舞台芸術実習D」「劇場プロデュース実習1」「劇場プロデュース実習2」「文化政策実習」から4単位。</p> <p>【展開科目】展開科目では、次の要件を満たした上で20単位以上を修得する。 「世界を知る」「地域の医療と福祉」「地域コミュニティ論」「NPO・NGOと国際社会」「多文化社会の社会教育」「地域情報論」から8単位、「持続可能な社会」「国際防災論」「兵庫の教訓を踏まえた防災」「ジオパークと地域」「コウトリの野生復帰と地域」「地域資源の保全と活用」「国際環境論」から4単位。</p> <p>【総合科目】総合科目では4単位を修得する。</p> <p>・実習による授業科目に係る40単位以上を修得すること。この授業科目に係る単位に臨地実務実習に係る20単位(5単位を超えない範囲で、連携実務演習等をもって代えることができる。)が含まれること。 ・履修制限:1学年ごとの履修単位数の上限は48単位とする。</p>
<p>&lt;主たる専攻・観光分野&gt; ・卒業要件 卒業要件単位数は、合計134単位以上を修得する。 次により、必修科目46単位、選択科目88単位以上を修得すること。</p> <p>【基礎科目】基礎科目では、必修科目及び選択科目について合計20単位以上を修得する。</p> <p>【職業専門科目】 職業専門科目では、必修科目のほか選択科目について次の要件を満たした上で、90単位以上を修得する。必修科目、選択必修科目の必修単位数を除く39単位のうち、30単位以上は「コア科目群」「共通」「観光系科目群」の科目から履修すること。</p> <p>コア科目群の「観光サービスマネジメント論」を必ず履修すること。</p> <p>(1)【共通】のうち「リーダーシップ論」「グローバルリーダー入門」「アントレプレナーシップ論」「組織マネジメント論」から2単位、「地域創生実習」「地域イノベーション実習」から2単位。</p> <p>(2)【観光系科目群】のうち「観光政策論」「観光交通論」「観光経営学」「観光産業分析」「旅行産業論」「宿泊産業論」から4単位、「デスティネーションマネジメント論」「観光マーケティング分析論」「観光デジタルマーケティング論」「デスティネーションマーケティング論」「ブランド論」「インバウンドマーケティング論」から2単位、「観光交通実習1」「旅行事業実習1」「宿泊業実習1」から2単位、「観光プロモーション演習」「デスティネーション実習」「観光プロジェクト立案演習」から2単位。</p> <p>(3)【芸術文化系科目群】のうち「文化政策概論」「批評論」「美学美術史」「映像メディア論」「民俗芸能論」「現代アート論」「文化産業論」から4単位、「舞台芸術基礎実習」「舞台芸術実習A」「舞台芸術実習B」「劇場プロデュース実習1」「劇場プロデュース実習2」「文化政策実習」「身体コミュニケーション実習」「海外実習B」から4単位。</p> <p>(4)【コア科目群】のうち「パフォーミングアーツ概論」〔芸術文化系科目群のうち「舞台芸術入門」「演劇入門」「空間デザイン入門」「演技論」「身体表現論」舞台芸術論」から4単位。</p> <p>【展開科目】展開科目では、次の要件を満たした上で20単位以上を修得する。 「世界を知る」「地域の医療と福祉」「地域コミュニティ論」「NPO・NGOと国際社会」「多文化社会の社会教育」「地域情報論」から4単位、「持続可能な社会」「国際防災論」「兵庫の教訓を踏まえた防災」「ジオパークと地域」「コウトリの野生復帰と地域」「地域資源の保全と活用」「国際環境論」から8単位。</p> <p>【総合科目】総合科目では4単位を修得する。</p> <p>・実習による授業科目に係る40単位以上を修得すること。この授業科目に係る単位に臨地実務実習に係る20単位(5単位を超えない範囲で、連携実務演習等をもって代えることができる。)が含まれること。 ・履修制限:1学年ごとの履修単位数の上限は48単位とする。</p>

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に並びで作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【令和3年度】**

- ・学生の履修計画を簡明にするため、「社会学」の開講時期を「1・2②④」から「1・2②」に変更。  
また、必修科目であることから、「隔年開講」から「毎年開講」に変更し、学修機会を確保。
- ・学生の履修計画を簡明にするため、「経済学」の開講時期を「1・2②④」から「1・2②」に変更。  
また、必修科目であることから、「隔年開講」から「毎年開講」に変更し、学修機会を確保。
- ・学生の学修環境確保のため、実習先の受入態勢を考慮し、「海外実習A」の開講時期を「2②」から「2④」に変更。
- ・受講にかかる学生への負担を軽減するため、「身体コミュニケーション実習」の開講時期を「1①」から「1①③」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
21 科目	125 科目	0 科目	146 科目	21 科目 [ 0 ]	125 科目 [ 0 ]	0 科目 [ 0 ]	146 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	基礎、展開、 職業専門、総合	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	海外語学研修C	2	1, 2, 3②	基礎	選択	コロナ禍による英国への渡航困難
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

英国サセックス大学で実施する「海外語学研修C」は、受入大学からコロナ禍を理由に受け入れを見合わせたいとの連絡があったことから、今年度の開講を中止した。  
 なお、現時点では、米国ワシントン大学（海外語学研修A）及びハワイ大学（海外語学研修B）からは見直しの連絡がないことから、海外での語学研修は実施可能と考えており、学生の海外英語学修の機会は提供可能である。以上については、学生に対し、ガイダンス等により周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{146} = \boxed{1.36} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校地等は豊岡市から 無償借用 借用面積： 14,805.18㎡ 借用期間： 30年		
	校 舎 敷 地	7,370.69㎡	0㎡	0㎡	7,370.69㎡			
	運 動 場 用 地	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
	小 計	7,370.69㎡	0㎡	0㎡	7,370.69㎡			
	そ の 他	7,434.49㎡	0㎡	0㎡	7,434.49㎡			
	合 計	14,805.18㎡	0㎡	0㎡	14,805.18㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	11,932.90㎡ (11,932.90㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)	11,932.90㎡ (11,932.90㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 (情報処理学習施設 と語学学習施設は共 用)		
	15室	8室	8室	1室 (補助職員 一人)	1室 (補助職員 一人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科			41 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	大学全体
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル				
	冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点		
	芸術文化観光学部 芸術文化観光学科	30,000 [6,100] ( 25,554 [5,658] )	80 [30] ( 41 [7] )	30 [30] ( 7 [7] )	244 (244)	— ( — )	— ( — )	
計	30,000 [6,100] ( 25,554 [5,658] )	80 [30] ( 41 [7] )	30 [30] ( 7 [7] )	244 (244)	— ( — )	— ( — )		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	1,245.08㎡		134席		70,000冊			
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体	
	0㎡ (豊岡市民体育館及び 総合体育館を使用)		ト レ ー ニ ン グ 室 107.94㎡ (豊岡総合スポーツセンター (野球場・陸上競技場・テニス コート)を使用)					
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。 学生1人当り納付金の第1年次欄、上段は入学の日の1年前から引き続き兵庫県内に住所を有する者又はその配偶者若しくは1親等の親族である者 下段は、上記以外の者
		教員1人当り研究費等	300千円	図書購入費	122,960千円	59,120千円	11,240千円	
	共同研究費等	20,000千円	設備購入費	124,326千円	5,500千円	5,500千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円 817.8 958.8	千円 535.8	千円 535.8	千円 535.8	千円 —	千円 —	
	学生納付金以外の維持方法の概要		運営費交付金・雑収入等					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	芸術文化観光専門職大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科	年	人	年次人	人	芸術文化学士(専門職) 観光学士(専門職)	1.05	1.05	-	令和3	豊岡市山王町7番92号	
大学全体	-	80	-	320	-	1.05	1.05	-	-	-	
大学の名称	兵庫県立大学						学生募集停止学科数	16	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
国際商経学部	年	人	年次人	人	学士(経済学)	0.95	0.91	-	令和元	-	
国際商経学科	4	360	0	1440	学士(経済学)	0.95	0.91	-	令和元	神戸市西区学園西町8丁目2番地の1	秋季入学定員(30)
社会情報学部	4	100	0	400	学士(社会情報科学)	80	1.01	-	令和元	-	
社会情報科学科	4	100	0	400	学士(社会情報科学)	1.01	1.01	-	令和元	神戸市西区学園西町8丁目2番地の1	
工学部	4	352	0	1408	学士(工学)	1.02	0.99	-	平成16	-	
電気電子情報工学科	4	126	0	504	学士(工学)	1.03	1.00	-	平成16	姫路市書写2167番地	
機械・材料工学科	4	126	0	504	学士(工学)	1.03	1.01	-	平成16	同上	
応用化学工学科	4	100	0	400	学士(工学)	1.01	0.96	-	平成16	同上	
理学部	4	175	0	700	学士(理学)	1.05	1.01	-	平成16	(2~4年次)赤穂郡上郡町光超3丁目2番1号	
物質科学科	4	90	0	360	学士(理学)	1.07	1.04	-	平成16	(1年次)姫路市書写2167番地	
生命科学科	4	85	0	340	学士(理学)	1.03	0.98	-	平成16	同上	
環境人間学部	4	205	0	820	学士(環境人間学)	1.03	1.01	-	平成16	-	
環境人間学科	4	205	0	820	学士(環境人間学)	1.03	1.01	-	平成16	(2~4年次)姫路市新倉家本町1丁目1	
看護学部	4	105	0	420	学士(看護学)	1.00	1.00	-	平成16	-	
看護学科	4	105	0	420	学士(看護学)	1.00	1.00	-	平成16	(2~4年次)明石市北王子町13番71号	
大学全体	4	1,297	0	5,188	-	1.01	0.98	-	-	-	
経済学研究科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
経済学専攻 (博士前期課程)	2	-	-	-	修士(経済学)	-	-	-	平成16	神戸市西区学園西町8丁目2番地の1	令和2年学生募集停止
経済学専攻 (博士後期課程)	3	-	-	-	博士(経済学)	-	-	-	平成16	同上	令和2年学生募集停止
地域公共政策専攻 (博士前期課程)	2	-	-	-	修士(経済学)	-	-	-	平成23	同上	令和2年学生募集停止



(博士前期課程)	2	25	0	50	修士(工学)	1.08	1.08	—	平成27	同上	
化学工学専攻											
(博士後期課程)	3	3	0	9	博士(工学)	0.33	0.33	—	平成27	同上	
物質理学研究科											
物質科学専攻											
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(理学)	—	—	—	平成16	赤穂郡上郡町光都3丁目2番1号	令和2年学生募集停止
物質科学専攻											
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—	平成16	同上	令和2年学生募集停止
生命理学研究科											
生命科学専攻											
(博士前期課程)	2	—	—	—	博士(理学)	—	—	—	平成16	赤穂郡上郡町光都3丁目2番1号	令和2年学生募集停止
生命科学専攻											
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(理学)	—	—	—	平成16	同上	令和2年学生募集停止
ビコバイオロジー専攻											
(一貫制博士課程)	—	—	—	—	博士(理学)	—	—	—	平成25	—	平成31年学生募集停止
理学研究科											
物質科学専攻											
(博士前期課程)	2	32	0	64	修士(理学)	1.03	1.03	—	令和3	赤穂郡上郡町光都3丁目2番1号	
物質科学専攻											
(博士後期課程)	3	11	0	33	博士(理学)	0.54	0.54	—	令和3	同上	
生命科学専攻											
(博士前期課程)	2	28	0	56	博士(理学)	0.92	0.92	—	令和3	同上	
生命科学専攻											
(博士後期課程)	3	9	0	27	博士(理学)	0.48	0.48	—	令和3	同上	
環境人間学研究科											
環境人間学専攻											
(博士前期課程)	2	30	0	60	修士(環境人間学)	0.55	0.60	—	平成16	姫路市新在家本町1丁目1番12号	
環境人間学専攻											
(博士後期課程)	3	6	0	18	博士(環境人間学)	0.99	0.83	—	平成16	同上	
看護学研究科											
看護学専攻											
(博士前期課程)	2	25	0	50	修士(看護学)	0.50	0.36	—	平成16	明石市北王子町13番71号	
看護学専攻											
(博士後期課程)	3	4	0	12	博士(看護学)	0.58	0.75	—	平成16	同上	
共同災害看護学専攻											
(一貫制博士課程)	5	—	—	—	博士(看護学)	—	—	—	平成26	同上	令和2年学生募集停止
応用情報科学研究科											
応用情報科学専攻											
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(応用情報科学)	—	—	—	平成16	神戸市中央区港島南町7丁目1番28号	令和2年学生募集停止
応用情報科学専攻											
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(応用情報科学)	—	—	—	平成18	同上	令和2年学生募集停止
シミュレーション学研究科											
シミュレーション学専攻											
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(シミュレーション学)	—	—	—	平成23	神戸市中央区港島南町7丁目1番28号	令和2年学生募集停止
シミュレーション学専攻											
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(シミュレーション学)	—	—	—	平成26	同上	令和2年学生募集停止

情報科学研究科	—	74	0	162	—	0.77	0.77	—	—	—	
データ計算科学専攻 (博士前期課程)	2	60	0	120	修士(情報科学)	0.85	0.85	—	令和3	—	神戸市中央区港島南町7丁目1番28号 神戸市西区学園西町8丁目2番1号
データ計算科学専攻 (博士後期課程)	3	14	0	42	修士(情報科学)	0.42	0.42	—	令和3	同上	
地域資源マネジメント研究科	—	14	0	30	—	0.87	0.64	—	—	—	
地域資源マネジメント専攻 (博士前期課程)	2	12	0	24	修士(学術)	0.91	0.66	—	平成26	—	豊岡祥雲寺字二ヶ谷128
地域資源マネジメント専攻 (博士後期課程)	3	2	0	6	修士(学術)	1.00	0.50	—	平成28	同上	
減災復興政策研究科	—	14	0	30	—	1.16	1.21	—	—	—	
減災復興政策専攻 (博士前期課程)	2	12	0	24	修士(学術)	1.12	1.16	—	平成29	—	神戸市中央区臨浜海岸通1丁目5番2号
減災復興政策専攻 (博士後期課程)	3	2	0	6	修士(学術)	1.33	1.50	—	令和元	同上	
緑環境景観マネジメント研究科	—	20	0	40	—	1.00	0.90	—	—	—	
緑環境景観マネジメント専攻 (専門職学位課程)	2	20	0	40	緑環境景観マネジメント修士(専門職)	1.00	0.90	—	平成21	—	淡路市野島常磐954番地の2
大学院全体	—	555	0	1,155	—	0.85	0.84	—	—	—	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。  
 ・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	中尾 清 (76) <令和3年4月> 修士 (政策科学)
		観光政策論 宿泊業実習1 宿泊業実習2 観光地理学※ 地域連携実習 専門演習 総合演習
専	教授	佐藤 善信 (68) <令和4年4月> 博士 (経営学)
		知と表現のデザイン マネジメント入門 エリアマネジメント論※ 地域イノベーション論 ブランド論 専門演習 総合演習
専	教授	藤野 一夫 (63) <令和3年4月> 文学修士※
		芸術文化と観光※ アートマネジメント概論※ パフォーミングアーツ概論※ 文化政策概論※ 芸術学※ 海外実習B 劇場プロデュース実習1 劇場プロデュース実習2 音楽文化論 専門演習 総合演習
専	教授	桑原 浩 (62) <令和3年4月> 文学修士 Master of Science (米国)
		知と表現のデザイン 海外語学研修A 海外語学研修B 海外語学研修C 芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 芸術文化・観光プロジェクト実習3 芸術文化・観光プロジェクト実習4 海外実習A デスティネーション実習 インバウンドマーケティング論 専門演習 総合演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	中尾 清 (76) <令和3年4月> 修士 (政策科学)
		観光政策論 宿泊業実習1 宿泊業実習2 観光地理学※ 地域連携実習 専門演習 総合演習
専	教授	佐藤 善信 (68) <令和4年4月> 博士 (経営学)
		知と表現のデザイン マネジメント入門 <b>事業創造入門※</b> エリアマネジメント論※ 地域イノベーション論 ブランド論 専門演習 総合演習
専	教授	藤野 一夫 (63) <令和3年4月> 文学修士※
		芸術文化と観光※ アートマネジメント概論※ パフォーミングアーツ概論※ 文化政策概論※ 芸術学※ 海外実習B 劇場プロデュース実習1 劇場プロデュース実習2 音楽文化論 専門演習 総合演習
専	教授	桑原 浩 (62) <令和3年4月> 文学修士 Master of Science (米国)
		知と表現のデザイン 海外語学研修A 海外語学研修B 海外語学研修C 芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 芸術文化・観光プロジェクト実習3 芸術文化・観光プロジェクト実習4 海外実習A デスティネーション実習 インバウンドマーケティング論 専門演習 総合演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	熊倉 敬聡 (61) <令和3年4月> Docteur de l' Université Paris 7 Spécialité: études littéraires (仏国)
		美学 芸術学※ 批評論 美学美術史 舞台芸術論※ 現代アート論 専門演習 総合演習
専	教授	古賀 弥生 (59) <令和4年4月> 博士(文化政策学)
		アートマネジメント概論※ 文化政策概論※ 地域コミュニティー論 地域創生論※ 地域創生実習 文化政策実習 専門演習 総合演習
専	教授	西崎(伊藤) 伸子 (50) <令和3年4月> 博士(地域研究)
		知と表現のデザイン 社会調査学 社会調査演習 ニューツーリズム論※ 国際環境論 専門演習 総合演習
専	教授	直井 岳人 (49) <令和3年4月> Doctor of Philosophy (英国) 博士(工学)
		観光産業マーケティング論 観光マーケティング分析論 デスティネーションマーケティング論 旅行者心理学 観光キャリア英語 専門演習 総合演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	熊倉 敬聡 (61) <令和3年4月> Docteur de l' Université Paris 7 Spécialité: études littéraires (仏国)
		美学 芸術学※ 批評論 美学美術史 舞台芸術論※ 現代アート論 専門演習 総合演習
専	教授	古賀 弥生 (59) <令和4年4月> 博士(文化政策学)
		アートマネジメント概論※ 文化政策概論※ 地域コミュニティー論 地域創生論※ 地域創生実習 文化政策実習 専門演習 総合演習
専	教授	西崎(伊藤) 伸子 (50) <令和3年4月> 博士(地域研究)
		知と表現のデザイン 社会調査学 社会調査演習 ニューツーリズム論※ 国際環境論 専門演習 総合演習
専	教授	直井 岳人 (49) <令和3年4月> Doctor of Philosophy (英国) 博士(工学)
		観光産業マーケティング論 観光マーケティング分析論 デスティネーションマーケティング論 旅行者心理学 観光キャリア英語 専門演習 総合演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	松井 かおり (54) <令和3年4月> 博士(学術)	専	准教授	
		英語1A 英語1B 英語合宿 海外語学研修A 海外語学研修B 海外語学研修C 専門演習 総合演習			
専	准教授	塩川 太郎 (48) <令和4年4月> 博士(農学)、博士(文学)	専	准教授	塩川 太郎 (48) <令和4年4月> 博士(農学)、博士(文学)
		観光資源実習 国際防災論 海外実習A 観光地理学※ 専門演習 総合演習			観光資源実習 国際防災論 海外実習A 観光地理学※ 専門演習 総合演習
専	准教授	富田 大介 (44) <令和3年4月> 博士(学術)	専	准教授	富田 大介 (44) <令和4年4月> 博士(学術)
		パフォーミングアーツ概論※ 身体コミュニケーション実習※ 舞台芸術入門※ 身体表現論※ ダンスワークショップ実習D 専門演習 総合演習			パフォーミングアーツ概論※ <del>身体コミュニケーション実習※</del> 舞台芸術入門※ 身体表現論※ ダンスワークショップ実習D 専門演習 総合演習
兼任	講師	富田 大介 (44) <令和3年4月> 博士(学術)	兼任	講師	富田 大介 (44) <令和3年4月> 博士(学術)
		パフォーミングアーツ概論※			パフォーミングアーツ概論※
専	准教授	藤本 悠 (39) <令和3年4月> 博士(文化情報学)	専	准教授	藤本 悠 (39) <令和3年4月> 博士(文化情報学)
		情報処理演習 ICT演習 データサイエンス演習 地域情報論 専門演習 総合演習			情報処理演習 ICT演習 データサイエンス演習 地域情報論 専門演習 総合演習
専	講師	平田 知之 (60) <令和3年4月> 修士(教育学)	専	講師	平田 知之 (60) <令和3年4月> 修士(教育学)
		コミュニケーション演習※ 知と表現のデザイン 演劇教育入門※ 演劇ワークショップ実習D 演劇教育論※			コミュニケーション演習※ 知と表現のデザイン 演劇教育入門※ 演劇ワークショップ実習D 演劇教育論※
			専	講師	傅 建良 (46) <令和3年4月> 博士(言語コミュニケーション文化)
					英語1A 英語1B 英語合宿 海外語学研修A 海外語学研修B 海外語学研修C

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	
		パフォーミングアーツ概論※ 舞台芸術入門※ 世界の文化政策※ 韓国語 舞台芸術論※ 文化政策実習 文化産業論
専	講師	小林(辛島) 瑠音 (39) <令和4年4月> 博士(学術)
		芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 芸術文化・観光プロジェクト実習3 芸術文化・観光プロジェクト実習4 世界の文化政策※ 企業メセナ論 アートキャリア英語 文化政策実習 現代アート論
専	講師	姚 瑤 (38) <令和3年4月> 博士(比較社会文化)
		日本語 中国語 海外実習A
専	助教	高橋 加織 (47) <令和3年4月> 修士(社会科学)
		観光資源実習 宿泊産業論 宿泊業実習1 宿泊業実習2 旅行事業実習1 旅行事業実習2 海外実習A ホスピタリティ実習
専	助教	井原 麗奈 (41) <令和3年4月> 博士(文学)
		知と表現のデザイン アートマネジメント概論※ 文化政策概論※ 劇場プロデュース実習1 劇場プロデュース実習2 文化政策実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	李 知映 (45) <令和3年4月> 博士(文学)
		パフォーミングアーツ概論※ 舞台芸術入門※ 世界の文化政策※ 韓国語 舞台芸術論※ 文化政策実習 文化産業論
専	講師	小林(辛島) 瑠音 (39) <令和4年4月> 博士(学術)
		芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 芸術文化・観光プロジェクト実習3 芸術文化・観光プロジェクト実習4 世界の文化政策※ 企業メセナ論 アートキャリア英語 文化政策実習 現代アート論
専	講師	姚 瑤 (38) <令和3年4月> 博士(比較社会文化)
		日本語 中国語 海外実習A
専	助教	高橋 加織 (47) <令和3年4月> 修士(社会科学)
		観光資源実習 宿泊産業論 宿泊業実習1 宿泊業実習2 旅行事業実習1 旅行事業実習2 海外実習A ホスピタリティ実習
専	助教	井原 麗奈 (41) <令和3年4月> 博士(文学)
		知と表現のデザイン アートマネジメント概論※ 文化政策概論※ 劇場プロデュース実習1 劇場プロデュース実習2 文化政策実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	助教	飛田 勤文 (39) <令和3年4月> Ph. D. in Arts Education (英国)	専	助教	飛田 勤文 (39) <令和3年4月> Ph. D. in Arts Education (英国)
		芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 芸術文化・観光プロジェクト実習3 芸術文化・観光プロジェクト実習4 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 演劇教育入門※ 海外実習B パフォーマンスキャリア英語 演劇教育論※			芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 芸術文化・観光プロジェクト実習3 芸術文化・観光プロジェクト実習4 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 演劇教育入門※ 海外実習B パフォーマンスキャリア英語 演劇教育論※
専	助教	中村 敏 (33) <令和3年4月> 修士(都市政策)	専	助教	中村 敏 (33) <令和3年4月> 修士(都市政策)
		芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 観光交通実習1 観光交通実習2 旅行事業実習1 旅行事業実習2			芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 観光交通実習1 観光交通実習2 旅行事業実習1 旅行事業実習2
実専	教授 (学長)	平田 オリザ (58) <令和3年4月> 教養学士	実専	教授 (学長)	平田 オリザ (58) <令和3年4月> 教養学士
		コミュニケーション演習※ 芸術文化と観光※ 演劇入門			コミュニケーション演習※ 芸術文化と観光※ 演劇入門
実専	教授	大社 充 (60) <令和3年4月> 農学士※	実専	教授	大社 充 (60) <令和3年4月> 農学士※
		観光事業概論※ destinationマネジメント論 destination実習 芸術文化・観光プロジェクト実習3 芸術文化・観光プロジェクト実習4 観光プロジェクト立案演習 専門演習 総合演習			観光事業概論※ destinationマネジメント論 destination実習 芸術文化・観光プロジェクト実習3 芸術文化・観光プロジェクト実習4 観光プロジェクト立案演習 専門演習 総合演習
実専	准教授	杉山 至 (54) <令和3年4月> 教養学士	実専	准教授	杉山 至 (54) <令和3年4月> 教養学士
		コミュニケーション演習※ 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 舞台芸術入門※ 空間デザイン入門 舞台美術論 専門演習 総合演習			コミュニケーション演習※ 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 舞台芸術入門※ 空間デザイン入門 舞台美術論 専門演習 総合演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専	准教授	尾西 教彰 (51) <令和4年4月> 修士(文学)	実専	准教授	尾西 教彰 (51) <令和4年4月> 修士(文学)
		芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 文化施設運営論※ 劇場プロデュース実習1 劇場プロデュース実習2 総合芸術文化実習 専門演習 総合演習			芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 文化施設運営論※ 劇場プロデュース実習1 劇場プロデュース実習2 総合芸術文化実習 専門演習 総合演習
実専	准教授	木田 真理子 (37) <令和3年4月> 学士(社会学)	実専	准教授	木田 真理子 (37) <令和3年4月> 学士(社会学)
		身体コミュニケーション実習※ ダンスワークショップ実習A ダンスワークショップ実習C 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 演技論※ 専門演習 総合演習			身体コミュニケーション実習※ ダンスワークショップ実習A ダンスワークショップ実習C 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 演技論※ 専門演習 総合演習
実専	講師	児玉 北斗 (39) <令和3年4月> Master of Fine Arts in Choreography (スウェーデン)	実専	講師	児玉 北斗 (39) <令和3年4月> Master of Fine Arts in Choreography (スウェーデン)
		パフォーミングアーツ概論※ 身体コミュニケーション実習※ ダンスワークショップ実習B 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 身体表現論※ 舞台芸術論※			パフォーミングアーツ概論※ 身体コミュニケーション実習※ ダンスワークショップ実習B 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 身体表現論※ 舞台芸術論※
実専	講師	石井 路子 (57) <令和3年4月> 修士(教育学)	実専	講師	石井 路子 (57) <令和3年4月> 修士(教育学)
		コミュニケーション演習※ 芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 演劇ワークショップ実習B 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 演劇教育入門※ 演劇教育論※			コミュニケーション演習※ 芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 演劇ワークショップ実習B 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 演劇教育入門※ 演劇教育論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専	講師	山内 健司 (57) <令和3年4月> 教養学士	実専	講師	山内 健司 (57) <令和3年4月> 教養学士
		コミュニケーション演習※ 演劇ワークショップ実習A 演劇ワークショップ実習C 演技論※ 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D			コミュニケーション演習※ 演劇ワークショップ実習A 演劇ワークショップ実習C 演技論※ 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D
実専	講師	野津 直樹 (34) <令和3年4月> 学士(教育学)	実専	講師	野津 直樹 (34) <令和3年4月> 学士(教育学)
		知と表現のデザイン 情報処理演習 芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 芸術文化・観光プロジェクト実習3 芸術文化・観光プロジェクト実習4 観光交通論 ICT演習 観光情報演習			知と表現のデザイン 情報処理演習 芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 芸術文化・観光プロジェクト実習3 芸術文化・観光プロジェクト実習4 観光交通論 ICT演習 観光情報演習
実専	助教	中村 嘉雄 (56) <令和3年4月> 文学士	実専	助教	中村 嘉雄 (56) <令和3年4月> 文学士
		観光交通実習1 観光交通実習2 創造性開発演習 デスティネーション実習 地域イノベーション実習 地域連携実習			観光交通実習1 観光交通実習2 創造性開発演習 デスティネーション実習 地域イノベーション実習 地域連携実習
実専	助教	三浦 健太 (48) <令和4年4月> 経営管理修士(専門職)	実専	助教	三浦 健太 (48) <令和4年4月> 経営管理修士(専門職)
		地域創生実習 地域イノベーション実習 地域連携実習			地域創生実習 地域イノベーション実習 地域連携実習
実専	助教	河村 竜也 (41) <令和3年4月> 学士(芸術)	実専	助教	河村 竜也 (41) <令和3年4月> 学士(芸術)
		コミュニケーション演習※ 芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 舞台芸術入門※			コミュニケーション演習※ 芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 舞台芸術入門※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	田上 豊 (38) <令和4年4月> 学士(総合文化学)
		コミュニケーション演習※ 芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 演劇ワークショップ実習A 演劇ワークショップ実習B 演劇ワークショップ実習C 演劇ワークショップ実習D 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D
実(研)	教授	福嶋 幸太郎 (61) <令和3年4月> 博士(経済学)
		アカウントティング入門 ビジネスアカウントティング論 アントレプレナーシップ論 地域イノベーション実習 専門演習 総合演習
実(研)	教授	小熊 英国 (55) <令和3年4月> 博士(学術)
		マネジメント入門 観光事業概論※ 観光交通業実習1 観光交通業実習2 観光サービスマネジメント論 旅行産業論 旅行事業実習1 旅行事業実習2 ホスピタリティ実習 専門演習 総合演習
実(研)	教授	山中 俊之 (53) <令和3年4月> 博士(国際公共政策)
		世界を知る リーダーシップ論 創造性開発演習 マネジメントキャリア英語 専門演習 総合演習
実(研)	准教授	細海 真二 (60) <令和4年4月> 経営管理修士(専門職)
		事業創造入門※ グローバルリーダー入門 組織マネジメント論 地域イノベーション実習 リスクマネジメント論 専門演習 総合演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	田上 豊 (38) <令和4年4月> 学士(総合文化学)
		コミュニケーション演習※ 芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 演劇ワークショップ実習A 演劇ワークショップ実習B 演劇ワークショップ実習C 演劇ワークショップ実習D 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D
実(研)	教授	福嶋 幸太郎 (61) <令和3年4月> 博士(経済学)
		アカウントティング入門 ビジネスアカウントティング論 アントレプレナーシップ論 地域イノベーション実習 専門演習 総合演習
実(研)	教授	小熊 英国 (55) <令和3年4月> 博士(学術)
		マネジメント入門 観光事業概論※ 観光交通業実習1 観光交通業実習2 観光サービスマネジメント論 旅行産業論 旅行事業実習1 旅行事業実習2 ホスピタリティ実習 専門演習 総合演習
実(研)	教授	山中 俊之 (53) <令和3年4月> 博士(国際公共政策)
		世界を知る リーダーシップ論 創造性開発演習 マネジメントキャリア英語 専門演習 総合演習
実(研)	准教授	細海 真二 (60) <令和4年4月> 経営管理修士(専門職)
		事業創造入門※ グローバルリーダー入門 組織マネジメント論 地域イノベーション実習 リスクマネジメント論 専門演習 総合演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	准教授	高橋 伸佳 (52) <令和3年4月> 修士(スポーツ健康科学) 経営管理修士(専門職)※
		観光事業概論※ ニューツーリズム論※ エリアマネジメント論※ 宿泊産業論 宿泊業実習1 宿泊業実習2 ホスピタリティ実習 観光プロモーション演習 DESTINATION実習 専門演習 総合演習
実(研)	講師	瓶内 栄作 (43) <令和3年4月> 経営管理修士(専門職)
		事業創造入門※ 地域創生実習 地域イノベーション実習 地域連携実習
実(研)	講師	近藤 のぞみ (42) <令和3年4月> 修士(学術) Master Sociétés Contemporaines Specialité Société Contemporaine 2è me an(仏国)※
		知と表現のデザイン 芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 芸術文化・観光プロジェクト実習3 芸術文化・観光プロジェクト実習4 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 文化施設運営論※ 世界の文化政策※ 劇場プロデュース実習1 劇場プロデュース実習2 文化政策実習 総合芸術文化実習
兼任	講師	川向 洋太郎 (66) <令和3年4月> 文学士
		英語1A 英語1B
兼任	講師	Adam Crosby (46) <令和3年4月> Bachelor of Arts
		英語1A 英語1B 英語2A 英語2B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	准教授	高橋 伸佳 (52) <令和3年4月> 修士(スポーツ健康科学) 経営管理修士(専門職)※
		観光事業概論※ ニューツーリズム論※ エリアマネジメント論※ 宿泊産業論 宿泊業実習1 宿泊業実習2 ホスピタリティ実習 観光プロモーション演習 DESTINATION実習 専門演習 総合演習
実(研)	講師	瓶内 栄作 (43) <令和3年4月> 経営管理修士(専門職)
		事業創造入門※ 地域創生実習 地域イノベーション実習 地域連携実習
実(研)	講師	近藤 のぞみ (42) <令和3年4月> 修士(学術) Master Sociétés Contemporaines Specialité Société Contemporaine 2è me an(仏国)※
		知と表現のデザイン 芸術文化・観光プロジェクト実習1 芸術文化・観光プロジェクト実習2 芸術文化・観光プロジェクト実習3 芸術文化・観光プロジェクト実習4 舞台芸術基礎実習 舞台芸術実習A 舞台芸術実習B 舞台芸術実習C 舞台芸術実習D 文化施設運営論※ 世界の文化政策※ 劇場プロデュース実習1 劇場プロデュース実習2 文化政策実習 総合芸術文化実習
兼任	講師	川向 洋太郎 (66) <令和3年4月> 文学士
		英語1A 英語1B
兼任	講師	Adam Crosby (46) <令和3年4月> Bachelor of Arts
		英語1A 英語1B 英語2A 英語2B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	山口 修 (68) <令和4年4月> 英文学修士	兼任	講師	山口 修 (68) <令和4年4月> 英文学修士
		英語2A 英語2B			英語2A 英語2B
兼任	講師	和泉 有香 (58) <令和4年4月> 高等学校卒	兼任	講師	和泉 有香 (58) <令和4年4月> 高等学校卒
		英語2A 英語2B			英語2A 英語2B
兼任	講師	宮台 眞司 (62) <令和3年4月> 社会学博士	兼任	講師	宮台 眞司 (62) <令和3年4月> 社会学博士
		社会学【隔年】			社会学
兼任	講師	内田 樹 (71) <令和4年4月> 修士(文学)	兼任	講師	内田 樹 (71) <令和4年4月> 修士(文学)
		言語表現論【隔年】			言語表現論【隔年】
兼任	講師	桃木 至朗 (65) <令和3年4月> 博士(文学)	兼任	講師	桃木 至朗 (65) <令和3年4月> 博士(文学)
		地域とつながる歴史学【隔年】			地域とつながる歴史学【隔年】
兼任	講師	鈴木 寛 (58) <令和4年4月> 法学士	兼任	講師	鈴木 寛 (58) <令和4年4月> 法学士
		政治学【隔年】			政治学【隔年】
兼任	講師	高橋 源一郎 (70) <令和3年4月> 高等学校卒	兼任	講師	高橋 源一郎 (70) <令和3年4月> 高等学校卒
		文学【隔年】			文学【隔年】
兼任	講師	水野 和夫 (68) <令和4年4月> 博士(経済学)	兼任	講師	水野 和夫 (68) <令和4年4月> 博士(経済学)
		経済学【隔年】			経済学
兼任	講師	高橋 一夫 (61) <令和3年4月> 修士(経済学)	兼任	講師	高橋 一夫 (61) <令和3年4月> 修士(経済学)
		芸術文化と観光※ 観光経営学 観光産業分析			芸術文化と観光※ 観光経営学 観光産業分析
兼任	講師	佐竹 隆幸 (61) <令和4年4月> 博士(経営学)			<b>死去</b>
		事業創造入門※ 地域創生論※			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡本 健 (39) <令和5年4月> 博士(観光学)
		観光社会学 観光メディア論
兼任	講師	名淵 浩史 (58) <令和5年4月> 修士(都市ビジネス)
		観光デジタルマーケティング論
兼任	講師	岩田 和美 (64) <令和5年4月> 学士(外国研究)
		コーチング論
兼任	講師	福井 健策 (56) <令和4年4月> 法学修士
		芸術文化と著作権、法、契約
兼任	講師	内野 儀 (63) <令和3年4月> 博士(学術)
		演劇史
兼任	講師	青田 良介 (62) <令和5年4月> 博士(学術)
		兵庫の教訓を踏まえた防災
兼任	講師	川村 教一 (60) <令和5年4月> 博士(理学)
		ジオパークと地域
兼任	講師	松原 典孝 (42) <令和5年4月> 博士(理学)
		ジオパークと地域
兼任	講師	佐野 恭平 (35) <令和5年4月> 博士(理学)
		ジオパークと地域
兼任	講師	内藤 和明 (54) <令和5年4月> 博士(学術)
		コウノトリの野生復帰と地域※
兼任	講師	出口 智広 (49) <令和5年4月> 博士(農学)
		コウノトリの野生復帰と地域※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡本 健 (39) <令和5年4月> 博士(観光学)
		観光社会学 観光メディア論
兼任	講師	名淵 浩史 (58) <令和5年4月> 修士(都市ビジネス)
		観光デジタルマーケティング論
兼任	講師	岩田 和美 (64) <令和5年4月> 学士(外国研究)
		コーチング論
兼任	講師	福井 健策 (56) <令和4年4月> 法学修士
		芸術文化と著作権、法、契約
兼任	講師	内野 儀 (63) <令和3年4月> 博士(学術)
		演劇史
兼任	講師	青田 良介 (62) <令和5年4月> 博士(学術)
		兵庫の教訓を踏まえた防災
兼任	講師	川村 教一 (60) <令和5年4月> 博士(理学)
		ジオパークと地域
兼任	講師	松原 典孝 (42) <令和5年4月> 博士(理学)
		ジオパークと地域
兼任	講師	佐野 恭平 (35) <令和5年4月> 博士(理学)
		ジオパークと地域
兼任	講師	内藤 和明 (54) <令和5年4月> 博士(学術)
		コウノトリの野生復帰と地域※
兼任	講師	出口 智広 (49) <令和5年4月> 博士(農学)
		コウノトリの野生復帰と地域※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大迫 義人 (65) <令和5年4月> 博士(理学)
		コウノトリの野生復帰と地域※
兼任	講師	佐川 志朗 (54) <令和5年4月> 博士(農学)
		コウノトリの野生復帰と地域※
兼任	講師	中井 淳史 (51) <令和5年4月> 博士(文学)
		コウノトリの野生復帰と地域※ 地域資源の保全と活用※
兼任	講師	菊池 義浩 (44) <令和5年4月> 博士(工学)
		コウノトリの野生復帰と地域※ 地域資源の保全と活用※
兼任	講師	山室 敦嗣 (54) <令和5年4月> 博士(社会学)
		コウノトリの野生復帰と地域※ 地域資源の保全と活用※
兼任	講師	中尾 公一 (48) <令和4年4月> 博士(経営学)
		NPO・NGOと国際社会
兼任	講師	倉本 到 (46) <令和3年4月> 博士(工学)
		統計学
兼任	講師	矢口 芳生 (68) <令和3年4月> 農学博士
		持続可能な社会
兼任	講師	星 雅文 (49) <令和3年4月> 修士(保健学)
		地域の医療と福祉
兼任	講師	大谷 杏 (41) <令和4年4月> 博士(教育学)
		多文化社会の社会教育
兼任	講師	門林 岳史 (47) <令和4年4月> 博士(学術)
		映像メディア論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大迫 義人 (65) <令和5年4月> 博士(理学)
		コウノトリの野生復帰と地域※
兼任	講師	佐川 志朗 (54) <令和5年4月> 博士(農学)
		コウノトリの野生復帰と地域※
兼任	講師	中井 淳史 (51) <令和5年4月> 博士(文学)
		コウノトリの野生復帰と地域※ 地域資源の保全と活用※
兼任	講師	菊池 義浩 (44) <令和5年4月> 博士(工学)
		コウノトリの野生復帰と地域※ 地域資源の保全と活用※
兼任	講師	山室 敦嗣 (54) <令和5年4月> 博士(社会学)
		コウノトリの野生復帰と地域※ 地域資源の保全と活用※
兼任	講師	中尾 公一 (48) <令和4年4月> 博士(経営学)
		NPO・NGOと国際社会
兼任	講師	倉本 到 (46) <令和3年4月> 博士(工学)
		統計学
兼任	講師	矢口 芳生 (68) <令和3年4月> 農学博士
		持続可能な社会
兼任	講師	星 雅文 (49) <令和3年4月> 修士(保健学)
		地域の医療と福祉
兼任	講師	大谷 杏 (41) <令和4年4月> 博士(教育学)
		多文化社会の社会教育
兼任	講師	門林 岳史 (47) <令和4年4月> 博士(学術)
		映像メディア論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	俵木 悟 (51) <令和5年4月> 博士(学術)	兼任	講師	俵木 悟 (51) <令和5年4月> 博士(学術)
		民俗芸能論			民俗芸能論
兼任	講師	坂本 ひとみ (57) <令和5年4月> 博士(学術)	兼任	講師	坂本 ひとみ (57) <令和5年4月> 博士(学術)
		人的資源管理論			人的資源管理論
兼任	講師	西村 正喜 (52) <令和4年4月> 修士(法学)	兼任	講師	西村 正喜 (52) <令和4年4月> 修士(法学)
		建築関連法令と著作権※			建築関連法令と著作権※
兼任	講師	松田 典之 (50) <令和4年4月> 学士(工学)	兼任	講師	松田 典之 (50) <令和4年4月> 学士(工学)
		建築関連法令と著作権※			建築関連法令と著作権※
			兼任	講師	井上 芳郎 (63) <令和4年4月> 経営学修士(市場科学)
					地域創生論※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
  - ・ その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

**【令和3年度】**

・専任准教授・松井かおり採用辞退により、専任講師・傅建良に変更。令和2年第4回AC教員審査済。  
・専任准教授・富田大介採用時期延期により、就任年月日が令和3年4月から令和4年4月に変更。  
・令和3年度「パフォーミングアーツ概論」専任准教授・富田大介から兼任講師・富田大介に変更。  
・令和3年度「身体コミュニケーション実習」担当教員のうち専任准教授・富田大介を削除し、専任准教授・木田真理子、専任講師・児玉北斗が担当。令和2年第4回AC教員審査済。  
・兼任講師・佐竹隆幸死去により、「事業創造入門」の担当教員のうち佐竹を削除し、令和3年度は兼任講師・井上芳郎、令和4年度以降は専任教授・佐藤善信に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **既設で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要な研究業績を有する実務家教員数
17 名	9 名	7 名	3 名

(注) ・ 専門職大学設置基準、専門職短期大学設置基準により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学等】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
13	9	10	8	40	1	11	4	10	6	31	1
(11)	(6)	(9)	(6)	(32)	1						
専任教員数（専）	専任教員数（実専）	専任教員数（実（研））	/			専任教員数（専）	専任教員数（実専）	専任教員数（実（研））	/		
20	13	7				15	10	6			
(16)	(10)	(6)	/			/					
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
13	8	11	8	40	1	13	8	11	8	40	1
[ 0 ]	[ Δ1 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ Δ1 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 1 ]
専任教員数（専）	専任教員数（実専）	専任教員数（実（研））	/			専任教員数（専）	専任教員数（実専）	専任教員数（実（研））	/		
20	13	7				20	13	7			
[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	/			/					

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「実専」は実務家教員、「実（研）」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。  
 なお、みなし専任教員（実み）がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	1 名	4 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) 一④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{40}{40} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{1}{31} = \boxed{3.22} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	准教授	松井 かおり	R2	必修	英語1A	①	R2. 11.10付け、病氣療養のため就任辞退
				必修	英語1B	①	
				選択	英語合宿	①	
				選択	海外語学研修A	①	
				選択	海外語学研修B	①	
				選択	海外語学研修C	①	
				必修	専門演習	①	
				必修	総合演習	①	

合計 (D)			後任補充状況の集計 (E)							
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
1	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	8	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし							
合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
人	必修		科目	必修		科目	必修		科目
	選択		科目	選択		科目	選択		科目
	自由		科目	自由		科目	自由		科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1	人	必修	4 科目	必修	4 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	4 科目	選択	4 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	8 科目	計	8 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{40} = \boxed{2.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び ( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>○大学の所見 就任を辞退した専任准教授・松井かおりが担当予定の科目は、1年次配当科目を含む「英語1A」、「英語1B」、「英語合宿」、「海外語学研修A」、「海外語学研修B」、「海外語学研修C」であるが、新たに教員を公募の上、開学時に専任講師・傅建良が就任したため、学生への影響は発生しない。</p> <p>○学生への周知方法 学生に対してはシラバス等に掲載するとともに、ガイダンスにおいて周知している。</p>
---

(注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等		履行状況	今後の実施計画	
認可時 (令和2年)	1. 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	遵守事項	設置計画を確実に履行するように、開学時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させる制度を構築している。具体的には、組織的に授業の内容及び方法の改善を図るため、すべての授業を対象とした教員間の授業参観の実施など、教員間の教育研究活動の向上等を計画的に実施している。 また、入学ガイダンスにおいて、「履修の手引き」を配布し、芸術文化と観光の両分野を体系的に学ぶよう説明を行った。 さらに、本学の教育理念について理解を深めてもらうため、高校や実習先などのステークホルダーを学内に招いて周知に努めた。	履行中	設置計画を着実に履行していく。 教育研究等の状況について自己点検・評価に取り組み、結果を公表し、大学として社会への説明責任を果たすとともに、社会の評価を受け、教育内容や教育方法等を継続的に改善していくことにより、より高い教育研究水準に到達できるように努める。 また、教育課程連携協議会の意見を踏まえ、授業科目の編成や授業内容及び方法などの改善を教育課程に反映させるように努める。
認可時 (令和2年)	2. 「地域の新たな活力を創出する人材」となるために芸術文化と観光の両分野を学ぶ意義を、学内の全教職員や学生、また、広く社会に対し、あらゆる機会を通じて分かりやすく説明し、共有していくこと。	遵守事項	教職員には、教授会等を活用し、本学の理念やその意義について周知している。 学生には、入学ガイダンスにおいて、「履修の手引き」を配布して本学の教育理念や学びの特徴を周知した。また、1年次配当の必修科目である「芸術文化と観光」や初年次ゼミ「知と表現のデザイン」を通じて、芸術文化と観光の両分野を学ぶ意義を修得させるとともに、実習科目「芸術文化観光プロジェクト実習」を通じて実践的に修得させている。	履行中	大学における広報活動にとどまらず、小・中・高の学校との連携や公開講座、さらには地域との連携実習等を通じて社会に広く説明していく。
認可時 (令和2年)	3. 芸術文化を「人間の創話的機能による所産の総称」と定義しているが、芸術文化の定義は多様であり、発展していくものであるため、その定義に固定することなく、芸術文化の変容を踏まえてその定義を更新していくなどの柔軟性を持つことが望ましい。(助言事項)	改善事項	本学の芸術文化に関する科目は、総論的な科目を履修した後に幅広く学修する各論的な科目を配置するとともに、理論科目から実践科目まで幅広い教育課程としており、芸術文化の定義が変容した場合においては、教育課程連携協議会の意見などを踏まえて柔軟に対応する体制を構築している。	履行中	今後とも引き続き教育課程の見直しを継続し、芸術文化の変容を踏まえて柔軟に対応するように努めていく。
認可時 (令和2年)	4. 学問分野のうち、芸術文化分野において、「舞台芸術を中心に芸術文化に関する専門的知識・技能を身に付けさせる」ことなどについて、その意義や内容を受験生に対してあらかじめ明確に示すこと。	遵守事項	受験生に対しては、学生募集のためのオープンキャンパスなどの入試広報の場や、大学ホームページなど、様々な機会を通じて、芸術文化分野において「舞台芸術を中心に芸術文化に関する専門的知識・技能を身に付けさせる」ことなどを丁寧に説明している。また、オープンキャンパスでは、意義等を具体的に理解する内容を模擬講義として体験するプログラムを実施することとしている。	履行中	今後とも引き続き芸術文化と観光の意義を明確に示していく。

<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>5. 本学の養成する人材像を踏まえると、芸術文化、観光のいずれの専攻においても、両分野の学びが有機的に関連付けられていることが重要であることから、芸術文化分野と観光分野それぞれについて、各専攻の学生が効果的に学ぶことができるよう、以下について、開学までの間に必要な検討を行うとともに、開学後も不断に改善すること。</p> <p>(1) 観光を主とする専攻について、クロスオーバー科目や相互アプローチ科目を含め、芸術文化の分野との関連性について改めて確認し、授業内容の充実を行うこと。例えば、観光分野を主とする専攻において身に付ける「観光マネジメント能力」について、主に経営学的な観点からの「マネジメント」能力として説明されているが、副となる専攻で身に付けた芸術文化に係る知見を生かし、観光に関する事業活動を推進するためには、芸術文化やそれらに関連する施設などの「観光資源」をマネジメントする能力も重要になると考えられる。なお、「観光マネジメント」は多様な概念であることから、本学の「観光マネジメント」を改めて整理した上で、履修する学生に対して分かりやすく説明すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>1年次開講科目の「芸術文化と観光」をはじめ必修科目を通じて、芸術文化に係る知見を生かし、観光に関する事業活動を推進する意義について、全学生に分かりやすく説明している。</p>	<p>履行中</p>	<p>異なる分野の教員間の授業参観の実施を通じて、両分野の授業内容の向上を図るなど、今後とも引き続き教育課程を不断に充実するよう努めている。</p>
<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>5. (2) 副となる専攻の内容について、それぞれの分野の学びとして十分なものとなるよう、その内容や体系性について改めて確認し、必要に応じて履修要件の見直しや授業内容の充実を行うこと。また、クロスオーバー科目や相互アプローチ科目を含め、本学の養成する人材像の実現に資するよう、両分野の教員の協働による指導体制を構築し、両分野にまたがる内容を学ぶ科目を充実すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>履修指導については、初年次ゼミである「知と表現のデザイン」のクラス担任や、芸術文化と観光の両分野の教員が履修指導を行うアカデミックアドバイザーによる指導体制を構築した。年間を通じて、1人の学生に対し、芸術文化と観光の両分野の教員が履修指導を行うこととしており、学生指導にあたっては両分野を学ぶ意義を丁寧に指導している。</p> <p>また、すべての授業を対象として、教員が授業を参観することを推奨するなどFDを通じて、芸術文化と観光の両分野の教員間での研鑽に努めている。</p>	<p>履行中</p>	<p>今後とも引き続き教育課程を不断に充実するよう努めている。</p>
<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>6. 両専攻の教員や学生が、緊密な連携のもとに教育研究活動を実施できる環境を充実させること。また、芸術文化と観光の両分野を学ぶことによる新たな価値の創造に向け、「地域リサーチ&amp;イノベーションセンター（仮称）」を中核とするなどにより、両分野の教員等による共同研究を推進するとともに、その研究成果を教育課程連携協議会に報告し、教育課程に還元させること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>地域リサーチ&amp;イノベーションセンターにおいて、自治体や企業など各ステークホルダーとの個別連携プロジェクトを実施することとしており、芸術文化と観光の両分野を生かして地域に新たな価値を創造する事業を大学と地域とが一体となって実施している。</p> <p>また、本学の理念に相応しい芸術文化と観光の両分野を横断する複数の教員によるプロジェクト共同研究を対象に、学内公募により研究費を支援する制度を設け、共同研究を推進している。</p>	<p>履行中</p>	<p>今後とも引き続き地域リサーチ&amp;イノベーションセンターを中核とし、共同研究を推進するとともに、教員課程に還元していく。</p>

<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>7. 本学の目指す人材養成の実現には、各学生が、その進路や希望に応じて適切な授業科目を履修できることが不可欠であることから、履修指導を適切に実施するとともに、履修モデルや履修指導体制を不断に充実すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>4月6日に開催した入学ガイダンスにおいて、「履修の手引き」を配布し、カリキュラムの詳細や芸術文化分野及び観光分野ごとの履修モデルを示して履修指導を実施した。また、初年次ゼミである「知と表現のデザイン」のクラス担任が個別面談を含む履修指導を実施するとともに、学生は年間を通じて、芸術文化と観光の両分野の教員による履修指導を受けることとしており、学生が主体的で体系的な履修計画を作成し、大学で学ぶ目的や将来の進路を見据えた学修目標の設定と達成に対する支援を実施している。</p>	<p>履行中</p>	<p>今後も引き続き、在学中を通じて、芸術文化と観光の両分野の教員が履修指導を行うアカデミックアドバイザー制を活用し、丁寧な履修指導体制を充実していく。</p>
<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>8. 想定される進路として、アートマネジャー（芸術文化分野）や観光事業プランナー・マネジャー（観光分野）が示されているが、芸術文化と観光の双方を学んだ学修成果が生かされるよう、例えば、官公庁など公的部門を含む幅広い進路の選択肢を開拓するとともに、地域のみならず多方面で活躍できるよう就職支援を充実すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>設立団体である兵庫県庁をはじめ、地元3市役所（豊岡市、養父市、朝来市）、2町役場（香美町、新温泉町）において、芸術文化、観光、地域連携に関する臨地実務実習を実施するほか、兵庫県立芸術文化センターやひょうご観光本部など公的部門を含む臨地実務実習を実施することにより、学生に対して幅広い進路の選択肢を提供している。地域リサーチ&amp;イノベーションセンターの活動に学生が参加することにより、芸術文化と観光の双方を学んだ学修成果が生かして、地域課題の解決に取り組むことで視野を広げる機会を設けている。また多くの分野の教員によるキャリアセミナーを毎月実施することで多くの分野を知る機会を提供して就職支援を充実する。</p>	<p>履行中</p>	<p>今後も引き続き多方面で活躍できるよう就職支援を充実し、芸術文化政策や観光政策にとどまらず公共分野で活躍する人材を育成していく。</p>
<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>9. 「演劇入門」の内容を踏まえると、演劇や舞台芸術を幅広く学び深い考察ができる授業科目を開設することが望ましい。また、「建築関連法令と著作権」の授業において、法律の基礎的素養を教授する内容も取扱うことが望ましい。</p>	<p>改善事項</p>	<p>本学の舞台芸術に関する科目は、入門や概論などの総論的な科目を履修した後に、より幅広く学修する各論的な科目を配置する教育課程としている。「演劇入門」のほか「パフォーマンス概論」などの理論科目に加え、実践科目である「舞台芸術基礎実習」は、2年次以降、演劇や舞台芸術を幅広く学び深い考察及び実践ができるの科目として、「舞台芸術実習A」、「舞台芸術実習B」、「舞台芸術実習C」、「舞台芸術実習D」の科目は配置している。また、コア科目に建築関連に関する法令や著作権を学修する「建築関連法令と著作権」を配置し、基礎的要素の内容を取り扱うこととした。</p>	<p>履行中</p>	<p>今後も引き続き演劇や舞台芸術をより幅広く学び深い考察ができるより教育課程の充実に努めていく。</p>

<p>認可時  (令和2年)</p>	<p>10. 映像資料については、現代演劇を更に充実することが望ましい。また、英語圏のアーカイブを含め多様なジャンル（ミュージカル、映画、ダンスなど）を整備することが望ましい。</p>	<p>改善事項</p>	<p>映像資料については、青年団『東京ノート 6カ国語版』やNODA・MAP『赤鬼』などの現代演劇、グローブ座『ヤングアクター・ワークショップ シェイクスピア劇全作品名場面集 第一期 16作品』やアーサー・ミラー『セールスマンの死』、ピナ・バウシュ『夢の教室』など英語圏のアーカイブを含め、多様なジャンルを整備するよう努めている。</p>	<p>履行中</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止の観点から電子書籍及び電子ジャーナルを活用するなど、今後も引き続き完成年度へ向けて、映像資料等、電子媒体の教材の整備を進めていく。</p>
----------------------------	--	-------------	---	------------	--

- (注)
- ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
設置者 兵庫県  学則 (単位の計算) 第13条第3号 演習については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。	設置者 兵庫県公立大学法人  兵庫県立大学と芸術文化観光専門職大学の、2つの大学のそれぞれの強みと特色を生かして、教育研究の高度化や相乗効果を生み出すとともに、効率的な経営を行うことを目指し、兵庫県公立大学法人で運営することとした。  学則 (単位の計算) 第13条第3号 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。  専門職大学設置基準を踏まえ、演習における1単位当たりの授業時間数の考え方を整理し、30時間をもって1単位とすることとした。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学は小規模な大学であることに加え、FD・SD活動は重要な審議事項であるため、上部組織である教授会にて審議することとする。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>教授会：令和3年4月21日(水)開催</p> <p>教育の質の向上のため、すべての授業を対象とする教員間の授業参観の実施等を周知</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>(FD・SDにかかる教授会の審議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の質の向上に向けた所施策の企画・立案及び支援</li> <li>・職員の研修等の企画・実施及び支援</li> <li>・職員の能力開発の推進に向けた諸施策の企画・実施及び支援</li> <li>・授業の改善に関すること</li> </ul> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>(FD・SDにかかる教授会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員相互の授業参観</li> <li>・教員研修</li> <li>・SD研修(新任職員研修)</li> </ul> <p>今後の教職員研修会参加についても検討していく。</p> <p>b 実施方法</p> <p>教員相互の授業参観を実施。特に、異なる専門分野の科目を参観することを推奨。</p> <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>すべての授業を対象とする教員相互の授業参観を実施</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>現在は具体的な取り組みは行われていない。今後、研修会に参加し、教員間で情報共有を行い、授業改善に努めていく予定である。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>未実施。令和3年度全開講科目を対象とする授業評価アンケートを実施する。アンケート結果について検討し、授業の改善に努める。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>学生の回答を集計及び検討の上、年度末に報告書を作成し、教職員に報告書を配布する。</p>
--

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

① 体制

a 委員会の設置状況

設置状況・・・産業界及び地域社会等と連携して教育課程の編成をするために、学長のもとに「教育課程連携協議会」を設置する。教育課程連携協議会規程を制定（令和3年4月1日施行）  
構成員の交代・・・所属の人事異動に伴い、津留敦徳から中野裕行へ、澁谷義人から今井一之へ、藤田尚宏から井澤雄俊へ変更した。

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

第1回協議会は令和3年5月19日（水）に開催済。第2回協議会は10月頃に開催予定。

c 委員会の審議事項等

- (1) 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
- (2) 産業界及び地域社会との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

- ・ 地域や産業界と連携した臨地実務実習の実習施設及び開講日程に関する審議
- ・ 地域や産業界と連携した臨地実務実習の内容に関する審議
- ・ 地域や産業界との連携の観点から臨地実務実習に対する意見交換

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

- ・ 協議会での議論を踏まえ、今後、見直しへ向けた取組を実施していく。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

- ・ 協議会での議論を踏まえ、今後、教育課程への反映へ向けた取組を実施していく。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見  
開学後1か月が経過し、設置認可申請書に記載した内容に基づき、大学運営を行っている。  
専門職大学の特性を生かし、今後も設置の趣旨・目的を遵守し大学を運営していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期  
・令和4年9月末 公表予定

b 公表方法  
・大学ホームページ上に公開予定（令和4年9月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画  
・機関別認証評価及び分野別認証評価ともに、学内で検討中であり、具体的な計画は未定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [  調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・  公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・  その他 ( ) ]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 [ ( ) ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、  
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに掲載するなど、積極的な情報提供をお願いします。

【設置計画履行状況報告書・補足説明資料(専門職大学等)】

(共通留意事項)

- 「認可(設置)時の計画」には認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」で記載した計画を記入ください。
- 認可申請書に記載がなければ「記載なし」と記入ください。
- 「履行状況」には報告時点で取り組んでいる事項(準備状況含む)を記入ください。  
その際、「認可(設置)時の計画」から変更している場合は、変更した理由を具体的に記入ください。

① 入学者選抜

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>・ 多様性に配慮した選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目)</p> <p>1 一般選抜(定員40人)</p> <p>幅広く多様な学生をを求める観点から、高等学校での学習の達成度を見てもとに本学での学修に必要な基礎学力を身に付けており、専門知識を得るための論理的思考能力や語学力等を重視した試験をA日程、B日程の2回に分けて実施する。このうち、A日程入試の定員は35人、B日程入試の定員は5人とする。 なお、A日程では本学は主体性・多様性・協働性を重視していることから集団面接を行うこととしている。</p> <p>2 総合型選抜(定員20人)</p> <p>本学の教育目的に賛同し、入学後の明確な目的意識と将来の展望を持ち、学ぶ意志の強い学生で、アクティブラーニングを中心とした教育課程のもと、新しい価値創造ができる人材の育成という視点から総合型選抜を実施する。具体的には、本学で学ぶ明確な目的意識や学んだことを将来へ生かす明確なビジョンを持っているかどうか、また、さらにそれらを実現させるための十分な意欲があるかどうかを受験生の資質・能力・態度から本学のアドミッション・ポリシーと照らし合わせて審査する。</p> <p>3 学校推薦型選抜(定員20人)</p> <p>本学の教育内容を理解し、意欲のある学生で、本学の学問分野である芸術文化分野及び観光分野はコミュニケーション能力や主体性・多様性・協働性が特に求められることから、高等学校での学習態度や学業への取り組み姿勢などを重視した学校推薦型選抜を実施する。具体的には、高等学校での学業成績やスポーツや文化活動で優秀な成績を収めたこと、また、委員会活動やボランティア、地域活動といった業績を通じて、受験生がこれまでに培ってきた資質・能力・態度を本学のアドミッション・ポリシーと照らし合わせて審査する。</p> <p>・ 社会人選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目)</p> <p>社会人向けの特別選抜は実施せず、入学志願がある場合には、総合型選抜において入学試験を実施する。</p>	<p>※入学者選抜において実際に各項目に該当する選抜を実施していればの結果と受験者や合格者の内訳を差支えない範囲で記入ください。</p> <p>認可(設置)時の計画どおりに履行 選抜及び実施方法を認可(設置)時の計画どおり実施した。</p> <p>(入試内訳) 【A】日程 志願者 163名 合格者 37名 志願倍率 4.7倍 【B】日程 志願者 139名 合格者 7名 志願倍率 27.8倍</p> <p>認可(設置)時の計画どおりに履行 選抜及び実施方法を認可(設置)時の計画どおり実施した。</p> <p>(入試内訳) 志願者 221名 合格者 24名 志願倍率 11.1倍</p> <p>認可(設置)時の計画どおりに履行 選抜及び実施方法を認可(設置)時の計画どおり実施した。</p> <p>(入試内訳) 志願者 98名 合格者 23名 志願倍率 4.9倍</p> <p>認可(設置)時の計画どおりに履行 社会人向けの特別選抜は実施しなかったが、総合型選抜において合格している。</p>

② 臨地実務実習

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>・ 実習先の確保の状況</p> <p>本学の実習受入を承諾した施設は、兵庫県のネットワークも活用しながら実習施設を開拓し、その結果、実習先として109施設の承諾を得ており、全学生320人分の実習施設を確保している。 実習施設は、兵庫県を中心に関西をはじめ、一部は首都圏や中国地方、北陸地方の施設からの承諾を受けている。</p> <p>・ 実習水準の確保の方策</p> <p>実習支援センターを設置し、実習施設との連絡調整や学生に対する実習目的の周知など、円滑な実習を実施するための全学的な連携体制を構築する。 実習支援センターでは、実習施設を選定した上で実習施設と連携し、実習の時期、時間、人数、教員の巡回日、事前学修及び事後学修など実習計画の立案及び進行管理業務を担う。 実習にあたっては、実習施設においては実習指導者を選任し、実習指導者と担当教員は実習内容を相互に綿密に打ち合わせるにより効果的な実習を実施する。実習中に学生から提出される日報、実習後に学生が行う報告、実習指導者の評価書、実習後の担当教員との事後面談等を踏まえ、実習担当の教員により最終的な成績を判定する。 実習後には、実習施設毎に専任教員と実習指導者で実習全体を検証し、必要に応じて改善策を講じる。また、実習施設間の不均衡を是正するため、各実習科目毎に責任教員たる教授、准教授を中心とし、実習科目担当教員間で各人の巡回指導の結果を踏まえた横断的な実習内容の検証を行い、必要に応じて改善することにより、実習水準の確保を図る。 実習支援センターは、実習水準を確保するため、実習マニュアルの見直しを行うとともに、教員と実習指導者が参加する研修会を開催し、実習内容に関する情報交換を行うとともに、課題を検証し、以後の実習の改善に繋げる機会を設ける。</p>	<p>※実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>認可(設置)時の計画どおりに履行 実習施設を認可(設置)時の計画どおり確保した。</p> <p>認可(設置)時の計画どおりに履行 実習施設と大学が連携し、実習マニュアル等を全学生に配布するとともに、実習内容を周知するなど、認可(設置)時の計画どおり実施した。</p> <p>令和3年度第2クォーターにおいて実施する臨地実務実習について、各施設の担当教員が施設を訪問し、実習の調整を行った。 また、5月7日(金)に実習ガイダンスを開催し、各施設における実習内容を教員が全学生に説明した。</p>

<p>・ 実習先との連携体制</p> <p>大学と実習施設が連携して実習指導を行い、それぞれの役割に関して共通認識を持ち、緊密な連携のもとで学修効果の高い実習が可能となる体制を構築する。</p> <p>個々の実習施設毎に実習施設担当教員を少なくとも1名配置し、実習の事前準備の段階から事後における実習内容の改善策の検討まで一貫して同じ教員が同じ施設と連絡調整を行う体制を構築する。担当教員は実習の実施計画作成のための協議、事前学習や事後学習の指導、教育課程連携協議会の意見を踏まえた改善策の検討などを行う。</p> <p>実習に際しては、事前学習として、あらかじめ実習開始前の履修ガイダンスの場で実習支援センターが実習マニュアルをもとに学内オリエンテーションを行う。</p> <p>・ 連携実務演習等</p> <p>企業等の指導者が学内教室を使用した演習やフィールドワークでの指導を通じ、学生の探求的な学修活動を促すとともに、学生が当該企業等の実務に係る課題等に取り組むことで実習と同じ教育効果を得る連携実務演習等の科目を開設する。</p> <p>この科目では、実社会の生きた課題を学修するため、学外から高い識見及び十分な実務経験を有する指導者を配置し、担当教員とも連携して実践的な演習を行う。連携実務演習等では、観光分野では観光プロジェクト立案演習、観光プロモーション演習の2科目、芸術文化分野では、舞台芸術基礎実習、舞台芸術実習A及び舞台芸術実習Cの3科目を開講する。これらの科目では、本学施設を利用するためグループで集中的な実践的活動が可能になるほか、高い識見及び十分な実務経験を有する指導者を配置し、担当教員と連携した指導にあたることにより十分な教育効果をあげることが可能である。</p> <p>演習にあたっては、教員は、連携先事業者と協議のうえ内容及び日程、指導者の指定、成績評価の基準及び方法など演習の実施に必要な事項について協議する。</p> <p>なお、連携先事業者における指導者の指定については、各事業者において関係実務に関する高い識見及び十分な実務経験を有し、本演習の指導を行うために必要な能力を有すると認められる者から選定する。</p>	<p>認可(設置)時の計画どおりに履行</p> <p>実習施設と大学が連携し、令和3年度第2クォーターにおいて実施する臨地実務実習の実習協定書を締結した。</p> <p>また、5月7日(金)に開催した実習ガイダンスにおいて、実習内容を学生に周知するなど、認可(設置)時の計画どおり実施した。</p> <p>認可(設置)時の計画どおりに履行</p> <p>連携実務演習等を認可(設置)時の計画どおり確保した。</p> <p>令和3年度第3クォーターに実施する「舞台芸術基礎実習」の詳細について、現在、調整を行っており、計画どおりに実施する。</p>
---	---

③ その他

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>・ 同時に授業を行う学生数が40人を超える場合に講じる措置</p> <p>・ 入学前の実務経験を単位に換算した場合、その実施状況 (換算の対象とした実務経験の内容と、換算した単位数、適切な換算が行われていることを説明すること。また換算の根拠となる規定等も添付すること)</p>	<p>※実際に実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>今年度においては該当する科目なし</p>